



高木仁三郎市民科学基金 設立からの活動経過

2016年9月10日(土) NPO法人設立15周年公開フォーラム
プラザエフにて

高木仁三郎市民科学基金 事務局長
菅波 完
sugenami@takagifund.org



報告の流れ

1. 高木基金の助成の仕組み
2. 助成先の概要・助成の成果
3. 設立からの大きな流れ・活動の節目
4. 公募助成以外の委託研究・特別事業
5. 議論されてきたこと
6. 市民科学をいかに実践するか
7. 高木基金らしさとは？



高木仁三郎と高木基金について

- 東大で核化学を専攻した第一線の研究者から在野の「市民科学者」へ。
- 原子力業界の閉鎖性、批判精神の欠如を批判、原発の重大事故の危険性を指摘してきた。
- 2000年10月に62才で死亡。
- 遺産を元に高木基金を設立。市民からの寄付を財源として市民グループの調査研究等を助成している。



「市民科学」をめざす個人・グループへの助成

- 「調査研究助成」と「研修奨励」
- 日本国内向けとアジア向け
- 「市民科学」を目指すものであれば、分野は問わず、応募者の資格も問わない
- 金額は1件100万円まで、継続応募も可能
- 設立からの15年間で、助成の累計は320件、合計1億7300万円
- この他に、核燃料サイクル政策、地震と原発、「柏崎刈羽・科学者の会」等への委託研究費に1600万円を支出、原子力市民委員会の立ち上げ



「市民科学」の考え方

- 「市民科学」「市民の科学」という言葉は幅広い文脈で使われている。
- 高木基金のイメージとして「現代の科学技術が様々な利便性をもたらした反面市民の健康や安全、あるいは地球環境への脅威となっているという認識のもとに行政や企業の利害から独立し、多くの場合、それらを批判的に検証する立場から市民が本当に必要とする科学的な情報を提供しようとする取り組み」(厳密な定義ではありません)



15年間の試行錯誤・運営上の工夫など

- 助成の最終選考として、公開プレゼンテーションを行い、会員や支援者、一般市民との相互交流の中で助成先を選ぶ。
- 調査研究が終了した後は、成果発表会やニュースレターでの報告、助成報告集の発行を通じて助成の成果を市民社会に還元し、研究への評価も市民にゆだねる。
- 2007年度からは、選考委員の一般公募を実施。選考委員会の活性化につながった。
- 「市民の寄付を集め」、「市民科学を助成する」と言うのは簡単だが、どちらも専門性が必要。



助成対象は、科学技術や社会政策の「負の側面」を
市民の立場で検証する調査研究・研修など



ポイントは、「現場」・「当事者」・「緊急性」





助成先の概要・助成の成果

□ 核・原子力関係の助成

- 「**高経年化(技術)評価報告書**」の詳細な批判的検討」
原発老朽化問題研究会
- 「**高レベル放射性廃棄物地層処分の批判的検討**」
地層処分問題研究グループ
- 「米、英、仏、独における**高速増殖炉開発**からの撤退について」
ストップ・ザ・もんじゅ
- 「米国ニューメキシコ州文化財として認定されたテラー山に
おける**「ロカ・ホンダ」ウラン鉱山開発問題**」
玉山 ともよさん
- 「**マーシャル諸島アイルック環礁**のヒバクシャ調査」
竹峰 誠一郎さん
- 「**ビキニ水爆実験被災船員**の実態調査と事件の実相解明」
山下 正寿さん



助成先の概要・助成の成果

□ 開発に対する自然環境の保全

- 「森林の治水機能の向上による**「緑のダム」**効果
—吉野川流域における**治水ダム(可動堰)**への代替案と
しての森林整備—」
吉野川みんなの会
- 「在沖**米軍基地**の**環境影響調査**及び関係者間の技術的
サポートシステム構築の可能性調査」
沖縄環境ネットワーク
- 「我が国に於ける**ダムの堆砂進行速度**を決定する要因と
法則性の調査・研究」
岡本 尚さん
- 「**エコツーリズム**が自然環境に及ぼす影響についての研究」
奥田夏樹さん
- 「草の根市民による**沖縄のジュゴン**保護活動の構築」
北限のジュゴンを見守る会



助成先の概要・助成の成果

□ 再生可能エネルギー

- 「エネルギー市場再編下の持続可能なエネルギー政策」
朝野 賢司さん
- 「エネルギーパラダイム転換のための政治メカニズムに関する研究」
古屋 将太さん
- 「再生可能エネルギーへのパラダイムシフトにおける地域主導型事業のメカニズムに関する定性的研究」
猪又 弘毅さん
- 「ボトムアップ型エネルギー供給システムの構築可能性に関する研究」
手塚 智子さん



助成先の概要・助成の成果

□ 廃棄物処分・化学物質・先端テクノロジーによる健康影響・環境汚染

- 「日の出町エコセメント製造工場の環境への影響調査」
たまあじさいの会
- 「ゴミ山(産業廃棄物の不法投棄)土壌の鉛含有濃度調査」
埼玉西部・土と水と空気を守る会
- 「カネミ油症被害者の聞き取り調査:聞き取り記録集の作成」
カネミ油症被害者支援センター
- 「大気中揮発性有機化合物簡易分析法の検討」
化学物質による大気汚染を考える会
- 「大阪・泉南地域の石綿被害実態と石綿公害問題の検証」
澤田 慎一郎さん
- 「隠れ遺伝子組み換えナタネ及び交雑種の拡大調査」
遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン



助成先の概要・助成の成果

□ 医療のあり方を患者の視点で問い直す

「アトピー性皮膚炎の成人患者支援スキームづくりのための基礎研究」 安藤 直子さん

「米国がん患者支援団体による科学研究費獲得、臨床試験推進に関する研修」 桜井 なおみさん

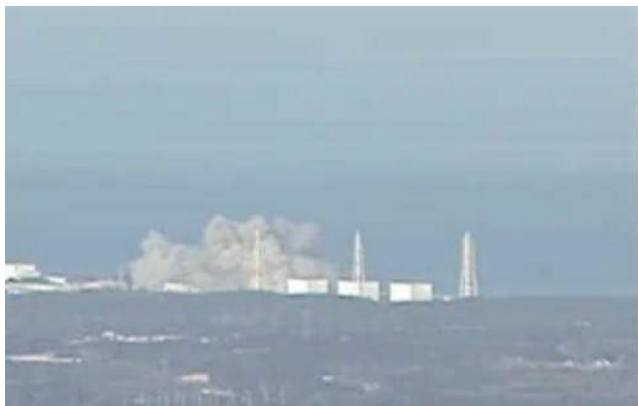
□ さらに市民科学のテーマは多岐にわたる

「靱(とも)港埋立て架橋阻止に要する

「亀の甲(亀甲状石積み)」の調査」 靱まちづくり工房



福島原発事故・・・安全神話の崩壊



福島第一原発 1号機 爆発
2011/3/12 15:36



福島第一原発 3号機 爆発
2011/3/14 11:01



3月12日夜 原子力資料情報室での記者会見
→ その後、連日のUstream 発信がスタート



2012/7/16 代々木公園での
「さよなら原発」集会に17万が参加





2012/7/29 国会議事堂前の道路を 再稼働反対を叫ぶ人々が埋め尽くした



高木基金：福島原発震災を受けての緊急助成

- 3/11震災 → 5/1 募集告知 5/9-25 応募受付
7月初旬に助成決定 → 10/1 中間報告会
- 従来からの調査研究の枠を拡大。
ジャーナリズム、キャンペーンなども助成対象に。
- 短期間の告知にもかかわらず31件/2,577万円の
応募 → 8件/500万円の助成先を決定。
- 「指定寄付」による助成金上乘せを試行的に実施。



緊急助成先一覧

受付番号	グループ名・申込者名	テーマ	助成金額 (万円)
119-011	青木 一政さん	子どもの生活環境の放射能汚染実態調査と被ばく最小限化	100
119-019	脱原発東海ネットワーク・市民放射能測定センター 伊澤 真一さん	東海地方・市民放射能測定センターの開設と食品および環境の監視	100
119-021	母乳調査・母子支援ネットワーク 村上 喜久子さん	母乳の放射能検査、福島原発事故による体内被曝	100
119-004	大島 堅一さん	福島原発事故による被害補償と費用負担	30
119-013	六ヶ所みらい映画プロジェクト 島田 恵さん	避難区域の人々の生活環境の変化と意識調査、六ヶ所村民・青森県民の意識調査	30
119-026	脱原発・新しいエネルギー政策を実現させる会 (eシフト) 飯沼 佐代子さん	エネルギー基本計画の課題分析、市民版基本計画策定、社会ムーブメントづくり	80
119-030	ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン 佐藤 大介さん	福島原発事故の全容をアジアに伝える～脱原発に向けたアジア連携構築～	30
119-031	OurPlanet-TV 白石 草さん	福島原子力発電所事故をメディアはどう伝えたか	30
合 計			500



設立からの大きな流れ・活動の節目

- 設立時： 2000-01年度
基金の立ち上げから助成プログラムの構築
- 助走期： 2002-05年度
基金を取崩しながら毎年1000万円規模の助成
- 展開期： 2006-10年度
認定NPO取得・委託研究の展開
- 3・11後： 2011-16年度
緊急助成・助成規模拡大、測定支援事業
原子力市民委員会の立ち上げ



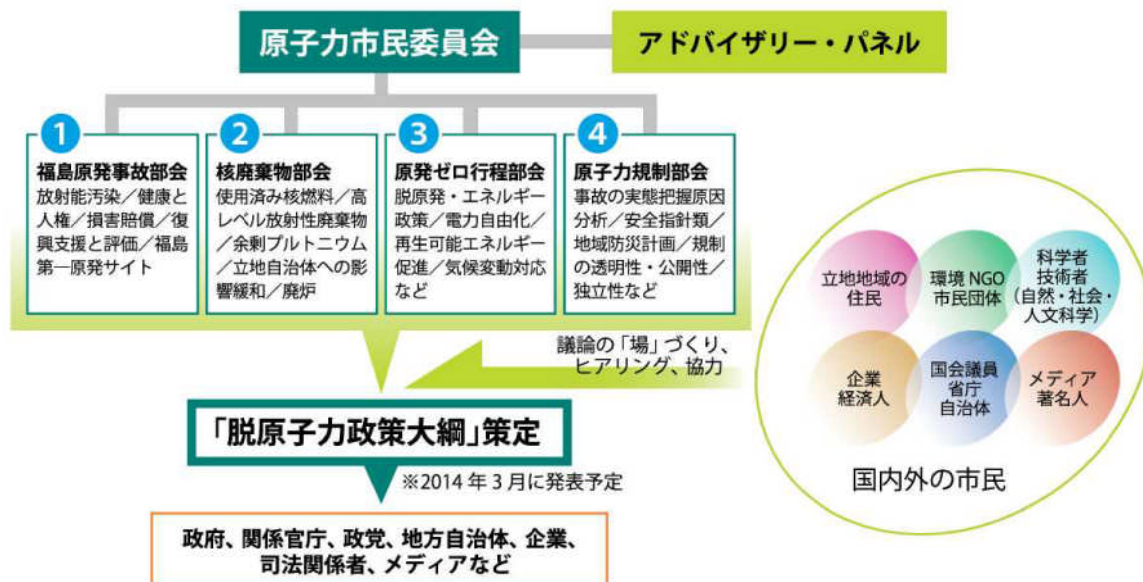
公募助成以外の委託研究

- 核燃料サイクル政策国際評価パネル
2005年度 福島県主催の国際シンポジウムに協力。原子力長期計画への対案提示。
- 「地震と原発」研究
中間報告会の翌日に新潟県中越沖地震発生
- 柏崎刈羽原発の閉鎖を訴える科学者・技術者の会
新潟県技術委員会の慎重派委員のサポート
→ 原発老朽化研究会、「地震と原発」研究からの連携が
国会事故調、ストレステスト意見聴取会等での研究者・
技術者の専門的批判活動へ
- 原子力市民委員会



原子力市民委員会の立ち上げ

- 脱原発社会を構築するための情報収集・分析、
政策提言に取り組み市民シンクタンク





議論されてきたこと

- 助成のテーマ性: 原発だけが対象ではない
- 若い人の育成
- プロの応募・プロとの関係性
- 助成先の固定化: 限られた助成予算の中で
- 調査研究としての方法が妥当か、計画的か
- 「書類の手間が多い」という声...



「市民科学」をいかに実践するか

- 「科学」の危うさへの認識
現代科学技術が市民社会への「脅威」となること
「オロオロアルキ」「ナミダヲナガズ」市民の立場
- 当事者性
- 「専門的批判の組織化」



相互関係・共同作業としての「市民科学」

- 「専門的批判の組織化」「市民の科学を目指して」 高木仁三郎
- **良心的な研究者「個人」に頼りすぎでは成立しない。**
研究者と研究者を市民がつなぐ努力、
研究者を困い込もうとする行政に対して、
良心的な研究者を孤立させない努力も重要。
 - 基金にお金を出す人、研究成果を受け止める人も含めた、**関係性／共同作業としての「市民科学」**
 - **市民ファンドは、資金の仲介をするだけでなく**
支援者と資金提供先をつないで
課題を実現にとりくむ社会的な機能の一部。



専門的批判の組織化 高木仁三郎『市民の科学をめざして』

「**組織化**といったのは、専門的批判作業を行う上で、文字通りの組織——集団的な作業の場——が不可欠だからである。その具体的な内容としては、専門的批判作業を担う人たちの組織化ないし若手の育成、設備・資料の確保も含めた作業場の保障と維持、市民住民運動との連携、社会的発言力の確保など、広く多様な事柄が含まれる。
すなわち、**批判的専門集団の一つひとつは、決して大きな組織でないとしても、批判作業の組織化ということ自体は、優れて社会的な広がりを持った営為とならざるをえない。**」



高木基金らしさとは？

- 運動体としての助成基金
- 市民活動の中間支援、「市民ファンド」の広がり
- 伴走支援、成果志向
- 「市民科学」という共通の価値
- その実践に向けた共同作業の場
- 答えのないことに挑み続けること
- 「縁の下」に力持ちはいません。



高木基金の概要

- 「高木基金の構想と我が意向」(2000年7月)
- 2000年12月 日比谷公会堂での「偲ぶ会」で基金設立の呼びかけ(参加者2,500名以上)
- 高木仁三郎遺産 30百万円
- 偲ぶ会前後のカンパ 50百万円
- その後の15年間の会費・寄付 377百万円
- その他の収入 24百万円
- 助成金・委託研究費 189百万円
- 選考・成果発表・広報事業費 129百万円
- 管理費 88百万円
- 基金残高 27百万円
- 事業引当金 48百万円



高木基金 設立時からの収支

■ 支援者数

基準日 2016/3/31

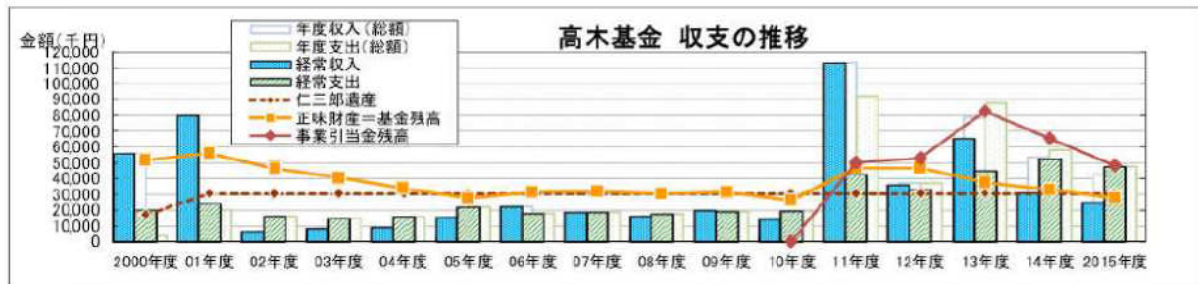
支援者数(人)	昨年度	速報
会員	534人	501人
寄付者	120人	312人
支援者数合計	673人	813人

目標
625人
275人
900人

■ 設立時からの累計

2015年度まで (単位:円)

収入	536,205,862	
内 会費・寄付・市民研究サポート	427,588,181	
内 高木仁三郎遺産	30,483,833	
内 受取利息・雑収入など	24,333,848	14.0倍
内 事業引当金取崩収入	53,800,000	
支出	508,384,239	支出構成
内 助成金・委託研究費	189,698,320	52.8%
内 助成関係費・広報・普及活動費	81,940,950	22.8%
内 管理費	87,555,445	24.4%
内 原子力市民委員会事業費	47,089,839	
内 事業引当金繰入支出	102,099,685	
基金残高	27,821,623	

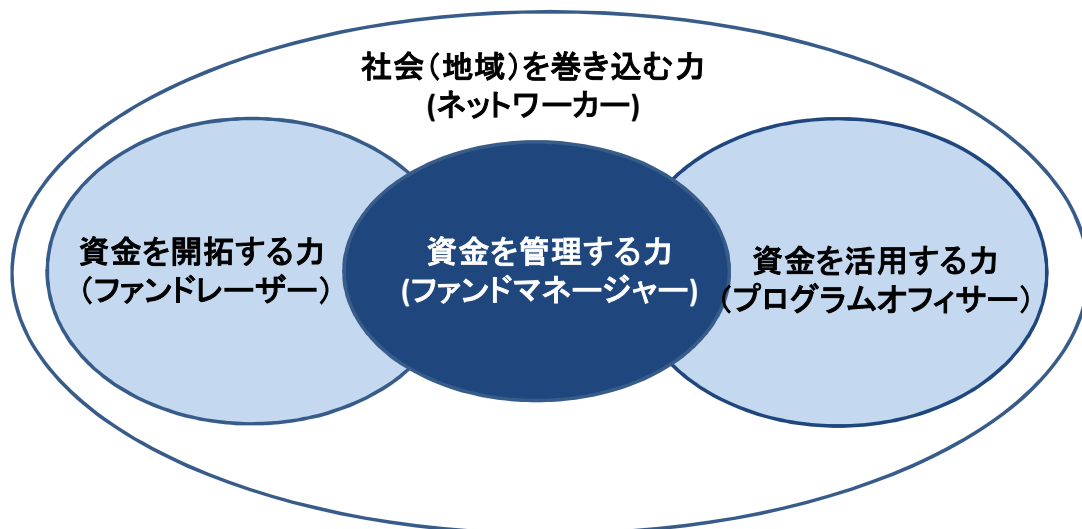


寄付→助成→納得→寄付:運動体としてのファンド

- 30百万円の遺産
 - 50+377百万円・・・ 14倍以上の寄付を誘発
 - 173百万円…………… 5倍以上を既に助成
 - 16百万円…………… テーマを明確化した委託研究
- 年間の支援者数は800名前後。
(1人1万円=約8百万円+大口寄付)
- 一般の会費・寄付と大口寄付のバランス。
新規の方、継続して支援して下さる方、
時々支援して下さる方・・・多様性と継続性

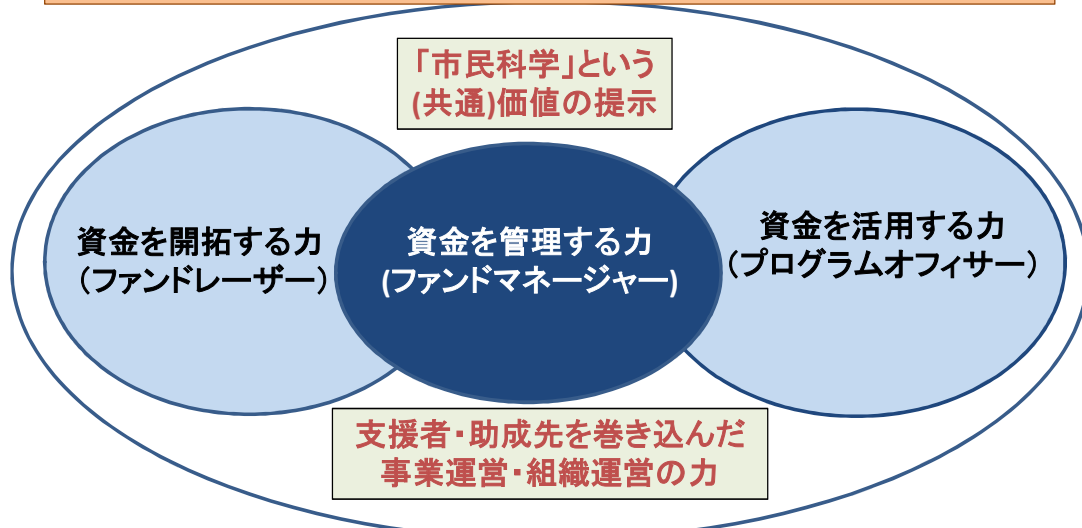
助成財団等の資金仲介組織に求められる力とは

<2016/7/1市民ファンド推進プログラム第2回研修での山岡義典さんの説明資料>



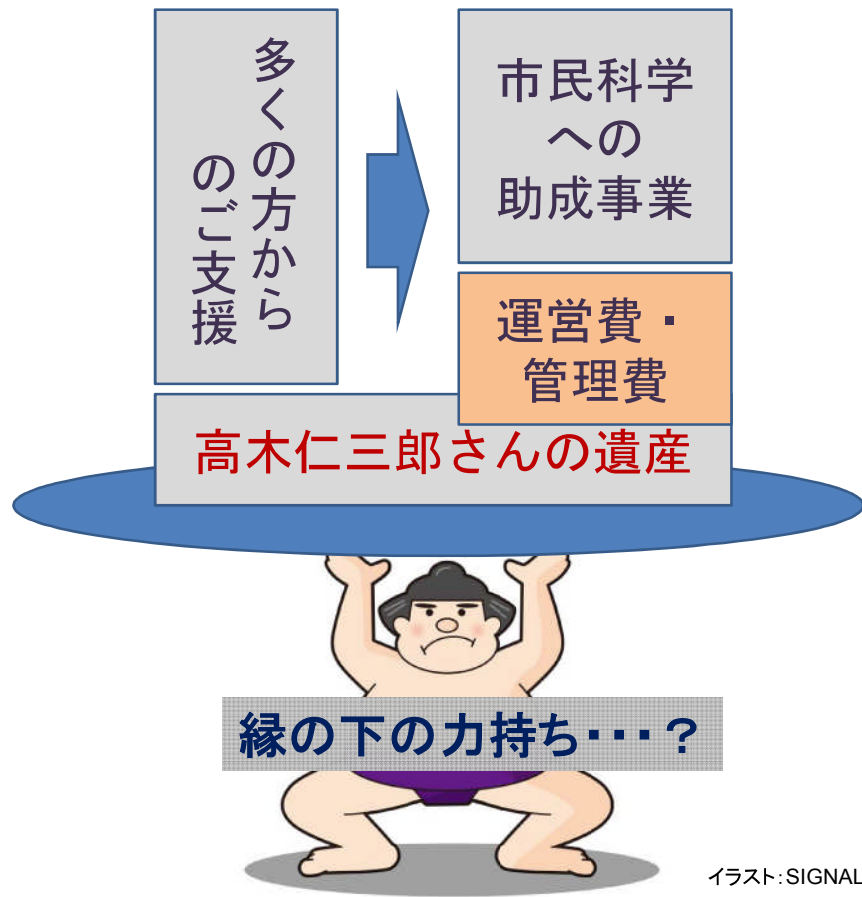
⇒どこに力点を置くかによって、ファンド／財団の性格が決まる
特に市民ファンド／コミュニティ財団には
社会(地域)を巻き込む力が求められる

「市民科学」の実践は、支援者・助成先と 高木基金の共同作業



⇒一般の市民ファンドやコミュニティ財団の動きを見ると、
資金循環の一端を担うために、活動のテーマ性や事業のあり方が「受け身」に
なったり、企業等からの「冠寄付」を引き受け、資金を配分する役割にとどまって
いるような傾向も見受けられる。
高木基金は、「市民科学」という共通の「価値」を示し、助成先や寄付者とも、
考えを共有する中で、継続的な助成を行うことで、その実現をめざしている。

高木基金は大丈夫？



その実態は？



イラスト:SIGNALESS

事務局の偽らざる心境です……。



みなさまからの継続的なご支援に
心からお礼を申し上げます。

今後ともご支援、ご協力のほど
どうぞよろしくお願いいたします。